



申命記5章 十戒

2014.2.21

1. 2-4分を逃し出る. YHWH 国から出る (さばき)
3. 4-偶像の地で平和 (祝福)

1-4
ハレルヤ.
主の御名を
(REUFARIZ)

YHWH 聖
父
命令する.
③

5-10
ア-ソン
(悪みを行つた)
聖い結果

③ → 子5

10分 聖vs欲
2分 5分
set. 悪み 悪い
6 7 8 9
6 | 7
8 | 9
3 vs 3

2分 聖
2分 欲
欲望の奴隷.

①. オ2は良善の知識. オ4はいのちの事なのか?
オ2も. 聖なること. いのちの話しどは正しいのか?
ex. エゼキエル20: オ1.2.3.4
金の子牛は. 大祭司アロン. 礼拝の罪ではないのか?
1-4 聖. 5-10 良ではないのか?

A. オ2とオ4はどんなに区別するの? - 2は分る. 4はどど分る
出エ1:-18: はオ1,2, 出エ19:-40: はオ3,4
→ エジプトの隷から逃れ出し. ⑤

出エジプト記をやっています。十戒の分析の中で第2番目の命令、第4番目の命令。以前から見ているところ、1番目と2番目の命令は、善悪の知識の木の果、3番目と4番目は命の木というように分けていましたけれども、出エジプト記を見たりしていく中で、第2番目も偶像を汚れているものというふうに言って、汚れているものを拝むなというようなことが出てくるし、命の話、聖なることなのではないのかという質問がありました。

エゼキエル20章のところを見ても、1番目、2番目、3番目、4番目という命令が一つになって繰り返し出てくる感じです。出エジプト記32章から34章のところも、偶像を拝む、偽りの祭りをするということが取り扱われて、偶像を作りますけれど、金の子牛は大祭司アロンが捧げて (いるので) 礼拝の罪ではないのか、聖なるほうではないかと考えられます。1番目から4番目までは聖なることで、5番目から10番目までが善と悪の知識というように分けたほうが良いのではということがありましたので、もう一度考えてみました。

2014.2.21

1. 2-ヤソを逃い出さ. ヤソ国から出さ (3:18)

3. 4-安息の地で平和 (祝福)

1-4
ハレルヤ.
YHWH 聖
命を下さる.
3

5-10
ア-ヤソ
(悪みを行な)
聖いなる
2 → 5 災
10 聖なる
4

Q. 2は良善の知識. 4はいのちなのか?

2も. 聖なること. いのちの話しどは守いのか?

ex. エドム: 1.2.3.4

全の午は. 大祭司PD. 礼拝の罪どは守いのか?

1-4 聖. 5-10 良どは守いのか?

A. 2と4はどんち區別有あ? ^{離れ.} 2は分り. 4はどどり

出エ1:-18: は 1, 2, 出エ19:-40: は 3, 4
 ↳ エジプト 奴隷から連れ出され 4:5

1番目から4番目の中、聖なるものという教えの中に2番目と4番目が入っているその区別は何だろうというのが、最初に書いてあるところ。1番目と2番目は、悪いものを離す、悪いものから逃げる、分けられる、連れ出される、区別されるというのが、1番目と2番目。パロとエジプトの国から連れ出される、分けられる、イスラエルが取り分けられるというのが1,2番目。4番目はその取り分けられた者たちがとどまる。安息に

2014.2.21

1. 2-ヤソを逃い出さ. ヤソ国から出さ (3:18)

3. 4-安息の地で平和 (祝福)

1-4
ハレルヤ.
YHWH 聖
命を下さる.
3

Q. 2は良善の知識. 4はいのちなのか?

2も. 聖なること. いのちの話しどは守いのか?

ex. エドム: 1.2.3.4

入れられて平和が守られてその中にとどまるというほうが4番目。

出エジプト記1章から18章までと19章から大きく二つに分かれます。1章から18章まではパロと戦ってエジプトの国から連れ出される。19章からのほうは、連れ出された民が神様と共に幕屋に住むという大きな二つです。1番目の命令と4番目の命令（出エジプト記ではなく申命記5章の十戒を見てください）には、エジプトの国、奴隷の家から連れ出したということが両方とも記載されています。このことからわかるように、連れ出されたということと、連れ出されて住まわされているという大きな二つに分けられるでしょう。

5-10

ア-メン (恵みと行の誓いは約束)

③ → 妻 (子5)

10 ← 4 霊vs欲

2 ← 5 父

6 7 8 9

見差.

奴隷が自由

欲望の奴隷

6 | 7

8 | 9

子vs子

全の子は、大祭司PDN. 礼拝の罪どは正しいか?

1-4 聖. 5-10 良どは正しいか?

A. オ2とオ4はどんと区別されたか? - 2は父に3. 4はとどまら

出工1:-18:はオ1,2, 出工19:-40:はオ3,4

エジプトの奴隷が5週外出して ← 5.

1番目から4番目の共通点は聖なることという見方もありますが、特に父に対してというのが1番目から4番目。5番目から10番目は、子が子たちに対して、隣人に対してというように分けられます。聖なる父、命令を守るならば父の聖なることがあらわされる。主の御名をほめたたえるというハレルヤというのが1番目から4番目。5番目から10番目は命令を守ることの、報いのほうではなくて、守ることのほうが強調されています。守ったらどうなるということは入っていないことはないですけど、守ることのほうが強調されていて、その神様から与えられた命令を守ります、恵みを守るなら祝福が与えられます、恵みを行います、誓いを果たしますという意味でアーメンが強調されているのだと思います。

5-10

ア-メン (恵みと行の誓いは約束)

③ → 妻 (子5)

10 ← 4 霊vs欲

2 ← 5 父

6 7 8 9

見差.

奴隷が自由

欲望の奴隷

6 | 7

8 | 9

子vs子

全の子は、大祭司PDN. 礼拝の罪どは正しいか?

1-4 聖. 5-10 良どは正しいか?

A. オ2とオ4はどんと区別されたか? - 2は父に3. 4はとどまら

出工1:-18:はオ1,2, 出工19:-40:はオ3,4

エジプトの奴隷が5週外出して ← 5.

妻である子たちを聖めることになるというのが5番目から10番目です。5番目の命令には、2番目の命令と同じように代々、恵みが代々、神様の祝福が代々続くという父の栄光を求めるならば、ということです。父を敬う、栄光化する、父の栄光を求めるならば代々恵みが与えられる、良いものが与えられる、良くされるということです。10番目の命令には、4番目の命令と同じ奴隷、妻、奴隷、在留異国人というのが出てきます。4番目と10番目では財産の話をしてはしますが、4番目は奴隷が自由になりましたということ。10番目は欲望の奴隷、欲の奴隷になってはいけないということで、御霊と欲の戦い、欲望からきよめられて御霊が満ちることが4番目の命令との平行で言われています。安息日の命令は、最初はマナのところが欲望の話と一緒に出てきます。

6,7,8,9はそれぞれペアで考えなくてはいけないと思いますけれど、子たちの間の問題を正しく取り扱うというような内容になっていると思いますので、後半は父、子、子、

御霊という神様と民の愛の関係を子たちの中で表している。この命令を守るならば、神様の、キリストの妻である教会の栄光が現される。1番目から4番目まではその命令を守って神様の栄光を求めているというのが与えられた命令の要約である十戒の構造だと思います。